

# 01. 総合計画とは

市政運営の羅針盤となる「最上位計画」

---

# 市の「最上位計画」としての役割

---

総合計画は、地方自治体の行政運営の基本となる計画であり、将来のまちづくりの方向性や施策を示す本市の最上位計画となります。

## ■ ①「バラバラ」を「一つ」に（経営の視点）

各部署がバラバラに動くのではなく、全員が同じゴールを目指すことで、限られた予算や人員を「一番必要なところ」に集中させる。

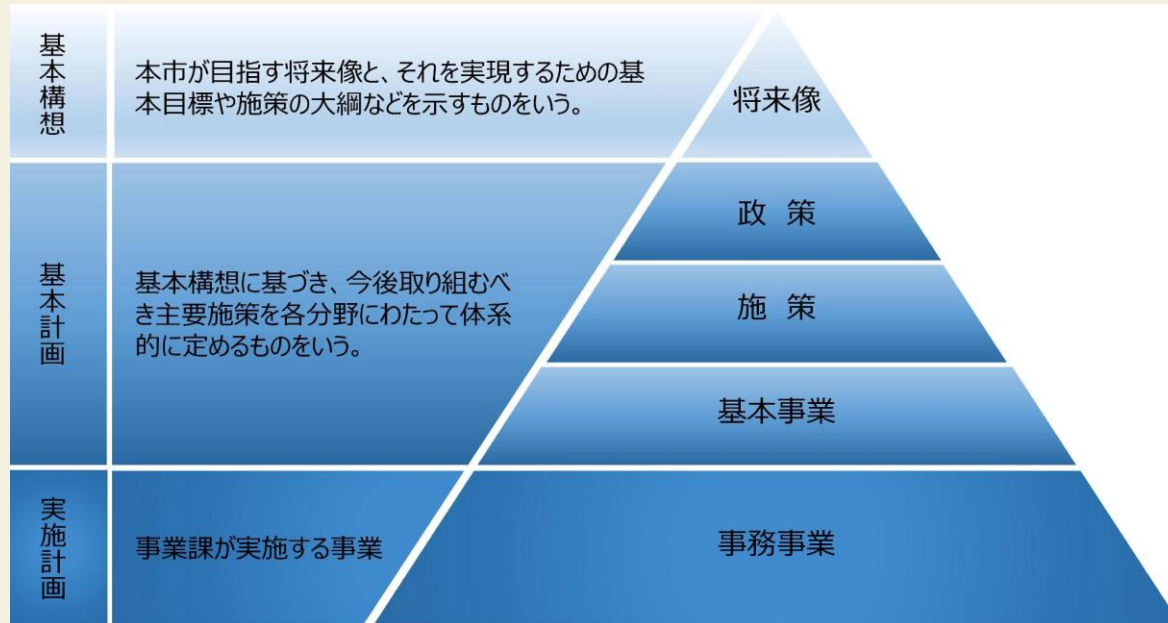
## ■ ②話し合いの「共通のルール」に（議会の視点）

「なぜこの予算が必要なのか」という判断の基準をはっきりさせることで、議会での議論がより噛み合い、納得感のある予算審議を可能にする。

## ■ ③市民との「未来への約束」（市民の視点）

10年後にどんなまちを目指すのかを「見える化」して約束し、その進み具合を伝えることで、市民との信頼関係を深める。

# 総合計画を構成する「三層構造」



【図1】総合計画の構造

## 基本構想

議会議決が必要

市の長期的な将来像と基本目標を定めます。まちの進むべき大きな方向性を示す最も重要な部分です。

## 基本計画

中長期の戦略

基本構想を実現するため、「まち」「ひと」「しごと」などの各分野ごとに、市として取り組むべき主要な施策を体系的に定めます。

## 実施計画

3年ごとのローリング

具体的な事業内容と予算を決める現場の「To Doリスト」です。社会情勢の変化に柔軟に対応するため定期的に見直します。

注)総合計画審議会では、「基本構想」と「基本計画」のみ

## 02. 第3次計画の背景と特徴

財政危機を乗り越え、実効性のある計画へ

---

# 第3次総合計画策定の背景と新たなアプローチ



## 「財政危機」を前提とした選択と集中

本市は厳しい財政状況にあります。既存事業の費用対効果を徹底的に検証・見直しを行い、捻出した財源を、本市の未来に真に必要な分野へ戦略的に集中投資します。



## TOC(制約理論)によるボトルネック解消

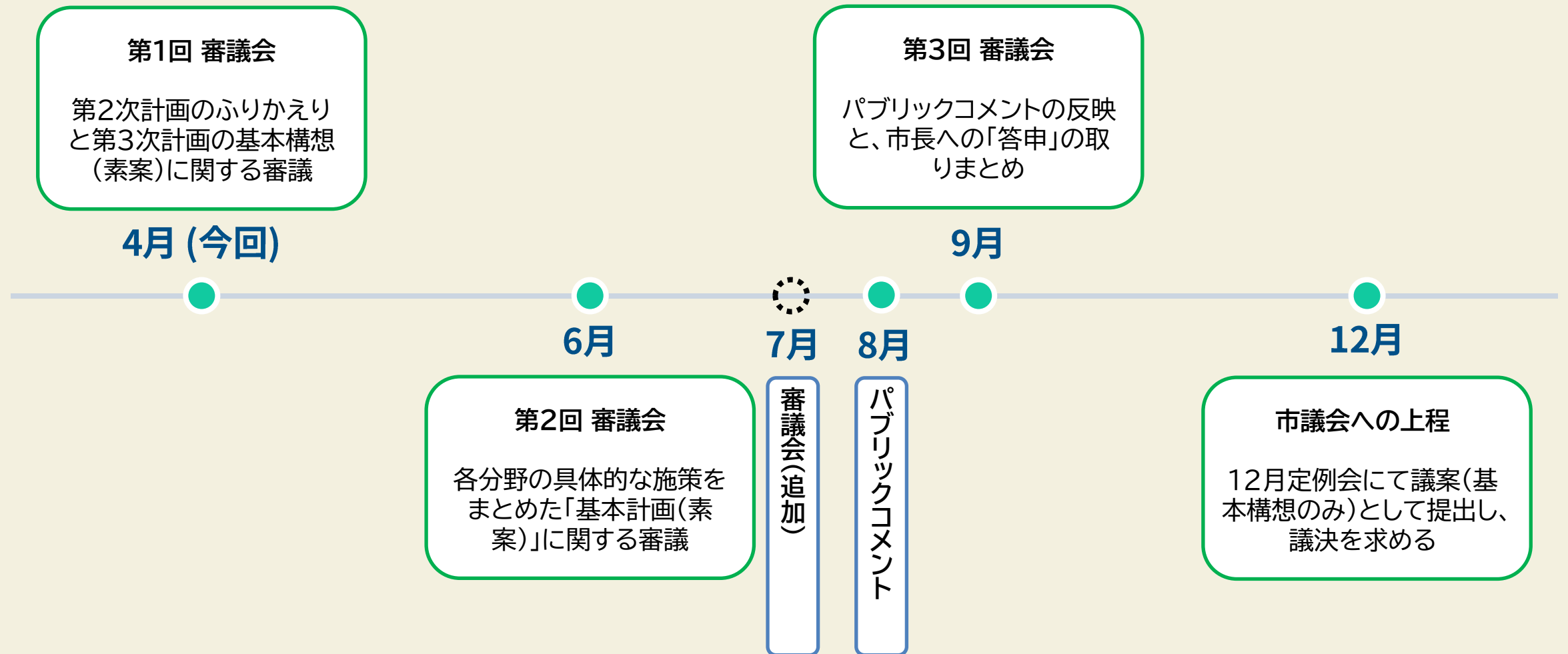
さまざまな課題に対して広く浅く予算を配分するのではなく、問題の根源である「一番詰まっている所(ボトルネック)」を特定します。そのボトルネックに対策(予算)を集中させることで、最小の労力で最大の効果を引き出す、論理的かつ効率的な計画を構築します。



## 生成AIの導入と、多様な市民の声の反映

生成AIを用いて主観に偏らない客観的な分析を実施。同時に、各種団体や中高生、一般市民から集めた「生の声」を基本構想や各戦略の素案にダイレクトに反映させます。

# 策定までのスケジュール（令和8年度）

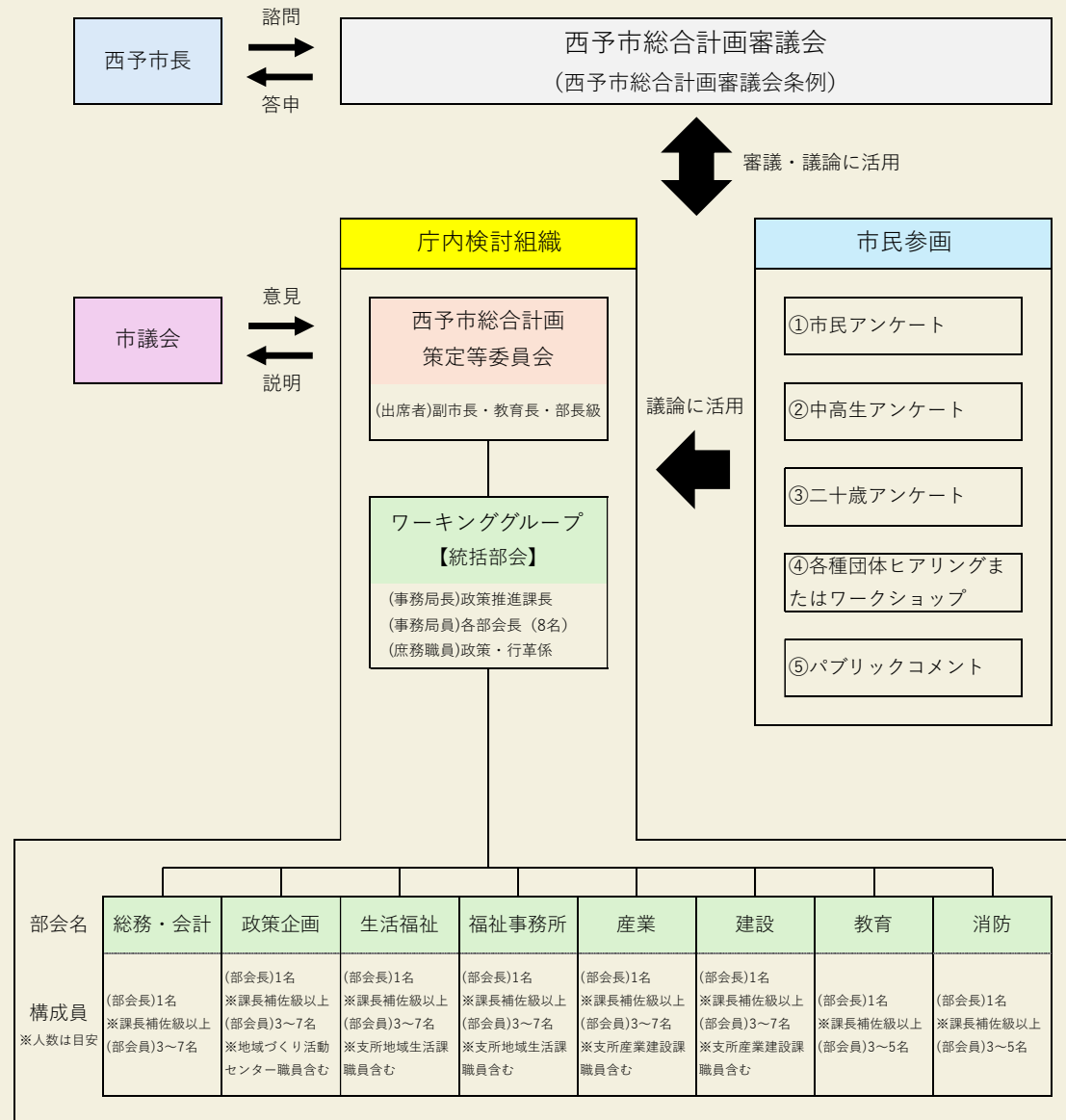


## 03. 総合計画審議会の役割

委員の皆様をお願いしたいこと

---

# 第3次総合計画の策定体制



# 審議にあたりお願いしたい「3つの視点」

- 総合計画審議会は、市の条例に基づき設置される正式な市長の附属機関です。
- 市長からの「諮問」を受け、第3次総合計画の基本構想および基本計画の素案について調査・審議を行います。
- 庁内組織だけで作成された素案に対し、市民の視点や専門的な視点から、客観的な評価と提言を行う重要な役割を担います。
- すべての審議の結果は「答申」として市長に提出され、最終的な市の計画案に反映されます。



## 全市的・大局的な視点

特定の地域や分野の利益にとらわれず、「財政的危機」という現実的な制約も踏まえた上で、市全体の最適解をご議論ください。



## 未来志向の視点

目先の課題解決にとどまらず、10年後、20年後の次世代（現在の中高生など）に、どのようなまちを引き継ぐかをご考慮ください。



## 忌憚のないご意見

行政の内部だけでは気づけない視点が必要です。多様な市民の代弁者として、または専門的見地からの率直なご提言をお願いします。

# 本審議会の運営ルールについて（透明性の確保）

## 原則「公開」での開催

市民への説明責任を果たし、計画策定プロセスの透明性を確保するため、本会議は原則として公開とし、一般市民の傍聴を受け入れます。

## 報道機関（マスコミ）への対応

報道機関による取材やカメラ撮影等は、自由闊達な議事進行の妨げにならないよう、原則として会議の冒頭（会長挨拶まで）に限定します。

## 会議録の作成と公表

当審議会での議論の経過および結果は会議録としてまとめられ、速やかに市ホームページ等を通じて広く市民に公表されます。



# ご質問・ご意見

質疑応答に移らせていただきます。